# 人と動物がともに幸せに暮らせるために

**犬・猫の「殺処分ゼロ」を目標とした動物愛護の取り組みが各地で行われています。浦添市では、ペットの適正飼養の呼びかけや公益財団法人どうぶつ基金の行う「さくらねこTNR」事業に協働する形で、「殺処分ゼロ」に向けた動物愛護活動に取り組んでいます。**

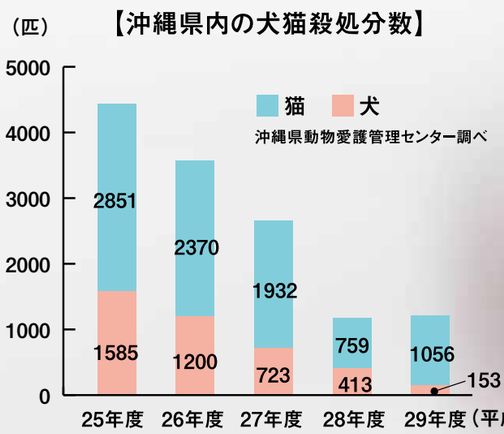
あなたはペットを飼ったことがありますか？

一般社団法人ペットフード協会によると犬の飼育数は約892万匹、猫の飼育数は約952万6千匹（平成29年10月時点）と推計されます。ペットを飼っていなくても犬や猫を目にする機会は多く、私たちにとって身近な存在となっています。

飼い主に愛され大切に育てられている犬や猫がいる一方で、捨てられてしまったり、迷子になってしまい飼い主の元に戻れず殺処分されてしまう犬や猫もいます。沖縄県動物愛護管理センターの統計によると、犬猫の殺処分数は平成25年度の4436匹から平成29年度の1209匹に減っています。その背景には、迷子により収容された犬猫を飼い主の元へ返したり、動物愛護団体の協力のもと、新しい飼い主探しの取り組みに力をいれたことなどが減少につながったのではないかと考えられます。

沖縄県では犬よりも猫の方が殺処分数が多く、動物愛護センターに引き取られた場合でも新しい飼い主が見つかりにくい状況です。

そこで今回は猫を中心に、ともに幸せに暮らせる方法を考えます。



※写真はイメージです。

## 野良猫による ご近所トラブル

日当たりの良い場所で目を細め気持ちよさそうにしている姿など、自由気ままに立ち振る舞う野良猫に魅力を感じる人も少なくないと思います。しかし、社会にとって、ときに「悩みの種」となってしまうこともあります。

浦添市では「猫が自分の敷地にフンをする」「夜中に猫の鳴き声がうるさくて困っている」など、猫に関する相談や苦情が多数寄せられています。もともと猫が嫌いなわけではなかったのに、フン尿被害やごみ荒らしがあることによって猫を嫌いになり、野良猫への虐待につながってしまう問題もあります。また、無責任なエサやりで問題が更に助長され、住民間トラブルに発展してしまうということもあります。

▲野良猫が増えてしまった地域

## 飼うことの責任

猫は繁殖力が強く、交尾するとかなり高い確率で妊娠し、平均5匹の子猫を産みます。多ければ年3回出産し、子猫は早ければ6か月で孫猫が産めるようになります。このように計算すると、1匹の母猫から1年間に生まれる子猫・孫猫は最大で50匹以上に達します。飼い猫が増えすぎて飼い主の生活ができなくなった例も聞かれます。

人と動物がともに幸せに暮らせるために、飼い主がルールを守り責任をもって飼うこと、望まない繁殖をしないように不妊去勢手術をする必要があります。

▲県内であった多頭飼育崩壊

## 猫を愛するあなたへ

### ❶ 室内飼育をする

近所トラブル回避や室内で飼うことで交通事故や病気のリスクから飼い猫を守ることができます。

### ❷ きちんと健康管理

病気にならないためのワクチン注射、ノミダニ対策などが必要です。

### ❸ 不妊・去勢手術のすすめ

子猫が生まれてしまった場合、飼い主が飼育できないことがほとんどです。繁殖を望まない場合は必ず不妊・去勢手術をしましょう。

写真提供:はちさん

おねがい

### 野良猫へ餌やりをする時のマナー

外で猫にエサやりするときはマナーを守ることが大切です。マナーを守らずにエサやりをすると、不衛生な上、フン尿被害やごみを荒らしたりするなど近所とのトラブルのもとになります。

外で猫にエサやりする時は

- 近所の人たちの理解が必要です。
- 決まった時間に適切な量だけあげる。
- 置きエサ禁止。食べ終わったら片づけて清掃する。